

3. 日本レトロウイルス研究会夏期セミナー 2009 報告

武内 寛明

東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター

レトロウイルス研究会夏期セミナーとは

日本レトロウイルス研究会が主催する夏期セミナーは、通称 SRC (Summer Retrovirus Conference) として 1998 年から開催され、今年で 12 回目を迎えました。SRC は、日本だけでなく海外の研究機関に所属するレトロウイルス研究者ならびに学生が中心となって、日頃の研究成果を発表する研究会です。その際、堅苦しい雰囲気や排除し、建設的かつ友好的な雰囲気の中で活発な議論をおこなうことで、忌憚のない研究交流および若手研究者の育成を目的としています。

SRC2009 開催概要

今年は、日光市交流促進センターにて、8月27日夕方から29日正午まで開催されました。日本全国から50名以上の方々に参加頂き、盛会裡に終えることができました。本年の SRC では、下記の項目を特徴として掲げました。

- 1) 全員スピーチ参加型
- 2) レトロウイルスのトピックレビュー

1) については、参加者全員に発表の機会を設けることで、参加意識を高めることが出来たように感じました。若手研究者にとっては、各自の研究意義および成果を発表する絶好の機会でしたので、工夫を凝らした発表が数多く見受けられました。また、多種多様な質問攻めにあうことで四苦八苦している光景も多々見受けられましたが、自分の立ち位置を再認識する良い機会であったのではないかと思います。また、シニアの先生方には、研究者として得られた貴重な経験や教訓を述べて頂き、若手研究者を鼓舞して頂いたと同時に今後の参考となる道標を示して頂いたことは、大変意義深いものでした。

2) については、「ウイルスと宿主との攻防」を宿主細胞から個体レベルまで体系的に理解を深めることを目的に企画しました。総勢 11 名による大掛かりなレトロウイルスのトピックレビューとなりました。具体的なトピック項目を以下に記します。

1. Review of the 2009 Cold Spring Harbor Retroviruses Conference

2. Entry / Envelope
3. Uncoating / TRIM
4. APOBEC / RT
5. Nuclear import / Integration / Retrotransposon
6. RNA mechanisms
7. Assembly
8. Pathogenesis (Endogenous retroviruses)
9. Pathogenesis / Antivirals (Human AIDS)
10. Pathogenesis / Vaccine (Macaque AIDS)

項目 1 は、5 月末に Cold Spring Harbor 研究所にて開催されたレトロウイルス学会 (CSH meeting on Retroviruses) の報告を行っていただきました。この学会は、世界中の気鋭のレトロウイルス研究者が一同に会する機会であり、SRC 開催のきっかけとなった学会です。若手研究者からは、この学会に対する興味および参加意欲が湧いてきたという感想を聞きました。また、項目 2-7 では、感染標的細胞への吸着・侵入経路から出芽放出に至るまでの各過程において、国内および海外で研究を行っている気鋭の若手研究者によってトピックレビューが行われました。近年のウイルス感染に関わる宿主因子群をトピック毎で振り分けることにより、参加者全員が、個々の研究対象以外のトピックを含め体系的に理解を深めることが出来たのではないかと思います。更には、項目 8-10 において、個体レベルにおける様々なレトロウイルスの病原性についてお話して頂きました。SRC 終了後、多くの参加者から、これらのレビューが個々の研究だけでなく、今後の研究方向に大いに役立ちそうだとの感想を多数聞くことができました。この試みが、参加者全員の研究発展に大きく役立つであろうことを確信した次第です。トピックレビュープレゼンターの方々については、SRC2009 の WEB サイト (<http://src2009.web.fc2.com/>) をご覧下さい。

SRC 開催期間中は、全員スピーチ参加かつトピックレビューもふんだんに盛り込まれたスケジュールでしたので、タイトスケジュールとなってしまい、学術交流会と称した夜の酒宴に多くの時間が割くことができなかつたことは痛恨の極みですが、それにもめげず、若手のみならずシニアの先生方も含め、明け方まで交流を深めておられたのは、素晴らしい(?) ことだと思いました。更には、開催スケジュールの都合上、日光の景観に触れる時間を殆ど取る事

ができなかったことは、世話人としての不手際と猛省しておりますが、短期間での学術交流という目的は果たせたのではないかと考えております。来年度は、名古屋医療センター臨床研究センターの岩谷 靖雅 先生が世話人となり開催されます。この交流が今後も益々発展することを願うと共に、レトロウイルスに興味が少しでもある方々の参加を期待しています。

最後に、SRC 創設以来、日本ウイルス学会矢追基金の援助を賜うことができ、大変助かっております。SRC は参加費のみで運営する研究会ですので、矢追基金の援助は必要不可欠です。この場を借りて深く御礼申し上げます。

連絡先

〒 108-8639

東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター
感染制御部門 微生物学分野

TEL: 03-6409-2075

FAX: 03-6409-2076

E-mail: htake@ims.u-tokyo.ac.jp



SRC2009の様子。上から順に、懇親会の1コマ、セミナーの1コマ。